



病院の概要

- 医師数（研修医を除く）400名（うち指導医数 135名）
- 研修医数 1年目 30名 2年目 25名
- 研修医の主な出身大学 埼玉医科大学・岩手医科大学・金沢医科大学・
帝京大学・杏林大学・東京大学・弘前大学・
藤田保健衛生大学・山梨大学・日本大学・島根大学・
昭和大学
- 診療科 消化器・肝臓内科 内分泌・糖尿病内科 血液内科 リウマチ・
膠原病内科 心臓内科 呼吸器内科 腎・高血圧内科 神経内科
神経精神科（メンタルクリニック） 小児科 新生児科
消化管外科・一般外科 肝胆膵外科・小児外科 血管外科 プレストケア科 呼吸器外科 心臓血管外科 整形外科
形成外科・美容外科 脳神経外科 皮膚科 泌尿器科 産婦人科 産科 眼科 耳鼻咽喉科 リハビリテーション科
放射線科 歯科口腔外科 麻酔科 産科麻酔科 高度救命救急センター 救急科（ER）
総合診療内科 / 感染症科・感染制御科 輸血・細胞治療部 病理部
- 1日平均外来患者数 2128名 ● 1日平均入院患者数 792名
- 主な認定施設 高度救命救急センター、総合周産期母子医療センター、災害拠点病院、災害派遣医療チーム埼玉 DMAT 指定病院、
がん診療連携拠点病院、臨床修練指定病院



研修プログラムの特色

当院では病院の特性を活かし、日常的に遭遇する common disease から専門性の高い疾患のマネジメントまで幅広い研修ができるように工夫しています。研修プログラムは、研修医自身が自由にプログラムを組むことができる『埼玉医科大学3病院自由選択プログラム』、臨床研修と大学院コースを同時に学べる『研究マインド育成自由選択プログラム』、小児科・産婦人科等での研修を重視した『周産期成育プログラム』があります。

4月の導入研修（オリエンテーションを含む）では、内科病棟を中心に診療に必要な基本的姿勢、手技を身につけます。内科・救急研修では、時間外外来を経験し、一次から三次まで幅広く救急医療に従事することでプライマリ・ケアに必要な基本的技能を修得することが可能です。地域医療研修では全プログラムで沖縄県での研修を選択することが出来ます。また、2年目に高度救命救急センターでの研修を選択した場合には、希望があればドクターヘリに搭乗することも可能です。

毎月1回のCPCの他に、ランチョンセミナーも月に2回開催（2020年度より毎週開催予定）し、必修項目に関連した講義を行っています。



プログラム例 埼玉医科大学3病院自由選択プログラム（募集定員50名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目▶	導入研修	内科						救急		麻酔科		小児科
2年目▶	産婦人科	精神科	地域医療	外科	自由選択							

○必修

内科24週、救急8週、麻酔科8週、外科4週、小児科4週、産婦人科4週、精神科4週、地域医療4週（2年目）

○自由選択

2年目の40週（地域医療8週の場合は36週）は、どの診療科、施設で研修するか、研修期間を含めて研修医自身が選択出来る

その他 周産期成育プログラム（募集定員6名）、研究マインド育成自由選択プログラム（定員4名）



研修医の処遇

- 給与▶ 基本給 25万円 / 月
- 諸手当▶ 宿日直手当、時間外手当
- 保険▶ 日本私立学校振興・共済事業団
- 勤務時間▶ 原則 8時30分～17時30分
- 当直▶ あり（平均4回 / 月）
- 休暇▶ 有給休暇（初年度10日）
- 宿舎▶ あり（月額2万円）

主な臨床研修協力病院
協力施設

- ・埼玉医科大学病院
- ・埼玉医科大学国際医療センター
- ・沖縄県立北部病院（附属診療所含む）
- ・沖縄県立宮古病院（附属診療所含む）
- ・秩父病院
- ・患愛病院
- ・富家病院

他





当院の魅力

大学病院から離島まで

埼玉医科大学総合医療センターは、最先端の設備の中で平成 19 年には埼玉県よりドクターヘリ基地病院、平成 28 年には小児救命救急センターの指定を受けた地域基幹病院として高度な医療を提供し地域医療に貢献するのみならず、埼玉医科大学病院群の中では"Super General Hospital"と位置づけられ、診療のみならず大学病院として教育、研究に関しても優れた成果をあげています。

高度救命救急センター新棟を始め、外来化学療法センター、血液浄化センター、内視鏡センター、無菌室病棟などを新設し、病棟も順次改修工事を進めており、最新の設備で充実した研修を行うことが出来ます。

地域医療研修では、沖縄県立北部病院（同附属診療所を含む）、沖縄県立宮古病院（同附属診療所を含む）での研修を 2 ヶ月間選択することができます。（往復の交通費及び宿泊費（上限あり）の補助があります。）

実際に研修した先生方からは、大学病院とは大きく異なる環境で研修することで、とても勉強になったと好評です。

小江戸川越は古い街並みを残す歴史のある落ち着いた都市です。都内から近いこともあり近年多くの観光客で賑わっています。伝統と都会的な新しい感覚が混じった川越で研修医としての 2 年間でスタートしてみませんか。



研修責任者から message



研修管理委員長
木崎 昌弘

埼玉医科大学総合医療センターは、歴史あふる小江戸川越に位置する病床数 1,053、1 日外来患者数 2,000 名超、36 診療科に総合周産期母子医療センター、高度救命救急センター及び小児救命救急センターを有する県内最大の医療施設です。診療とともに教育、研究にも力を入れており、初期臨床研修では最新鋭の医療機器の導入による大学病院としての機能を十二分に発揮した先端医療から、common disease を中心とした地域医療まで幅広い疾患を学ぶことができます。私どもは、臨床研修の目標を「日常診療で頻りに遭遇する病気や病態に適切に対応できるよう、プライマリー・ケアの基本的診療能力を身につける」ことを基本とし、その上でさらなる専門教育を行なっています。全診療科に研修指導責任者をおき、個々の研修医にはお兄さん、お姉さん役のチューターを配することにより、日常の悩みから効果的な研修などの適切なアドバイスをを行い、研修目標が到達できるように支援しています。また、昨年より、研修管理委員会に研修医や若い先生方を委員として加え、研修医の生の声を反映できるような研修システムを作るように心がけています。

2 年間の研修中には、人気の沖縄離島研修も組み込まれていますので、大学病院から離島までの幅広い医療の現場を体験することが可能です。私どもは研修医の先生方ひとりひとりを大切に育て、次世代の我が国の医療を担う人材を育てたいと考えています。研修医として多くの方々かわれわれの門戸を叩いてくれることを心より歓迎いたします。



先輩研修医から message



研修医 1 年目
高橋 久一郎

埼玉県内で初期研修を考えていた私は、
① 1 症例 1 症例をしっかりと消化し自分の物にしたい
② 自分の治療方針やアセスメントを上級医にキチンと評価してもらいたい
③ じっくりやりたいけど症例数も積み重ねたい、という 3 つの理由で総合医療センターを軸に 3 病院自由選択プログラムを選択しました。

同じ診療科と言えども 3 病院でその特徴・社会的役割は異なるため、自分の達成したい目標に応じて各病院の診療科を選択できる事は私にとつととても有意義なものでした。

当院は大学病院としての academic な側面はもちろんのこと、市中病院としてカバーする医療圏の広さと患者数の多さから、多岐にわたる common disease を経験する事が出来ます。

また、経験豊富な上級医から丁寧な指導を受けられるため、短期的な治療方針だけでなく、長期的な治療方針についてもディスカッションする事が可能です。

研修医は 60 人前後と多いですが、疾患に対する治療方針・その日にしてしまっ間違いや経験した貴重な症例・他科の様子・手技の上手なやり方など、1 人では得られない多くの情報を得ることが出来ます。幅広く症例を経験し消化不良とならないようしっかりとステップアップするために、当院での初期研修をお勧めします。



女性医師支援コーナー

○当院では子育て支援の一環として、非常勤 I 類制度（短時間勤務）を設けており、女性医師の働きやすい環境を支援しています。産前産後の休暇はもちろんのこと、日直、当直の免除や短時間勤務を利用しながら、安心して子育てと研修ができるようサポートしています。

○院内には保育所（定員 80 名）を設置しており、保育士は 25 名以上在籍していますので安心して預けられます。

○女性医師就業継続支援窓口（医療人育成支援センター女性医師部門）を設けています。



連絡先 埼玉医科大学総合医療センター

臨床研修センター

〒350-8550 川越市鴨田 1981

TEL ▶ 049-228-3802 (直通) FAX ▶ 049-228-3802

E-mail ▶ kensi@saitama-med.ac.jp

URL ▶ <http://www.kawagoe.saitama-med.ac.jp/resident/>

アクセス ▶ 東武東上線、川越線 川越駅からバス 25 分



病院見学、その他イベント・説明会等の情報

●病院見学は随時受け付けています。

当院ホームページに掲載の申込書に入力し、メールに添付してお申込み下さい。